

令和2年度 【朝来市】認知症地域支援推進員活動報告

【朝来市】の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 5名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・ 認知症施策の組み立て
 - ・ 認知症に関する地域ケア会議「脳耕会」の運営
 - ・ 認知症高齢者等SOSネットワークの運営と推進
 - ・ 認知症ケアパスの活用と推進
 - ・ 認知症初期集中支援チームの運営と連携
 - ・ 介護者支援として認知症カフェの支援
 - ・ 認知症に関する事業所支援
 - ・ 認知症キャラバン活動の運営と支援
 - ・ 認知症疾患医療センターや認知症相談センターとの連携の強化

報告者氏名：藤原正浩・福富麻起子・小畑知見・小畑知見
・ 吳真理子

【朝来市】認知症施策全体図

●認知症予防の取り組み

あさごいきいき百歳体操（78か所）
脳若返り体操（地区自主運営）
もの忘れ相談



●医療・介護の提供

認知症初期集中支援チーム（1/月）
（認知症初期集中検討委員会）
医療と介護の連携会議（4回/年）
朝来の介護と医療を考える会（1/月）
認知症事業所支援（6事業所）
（但馬長寿の郷セラピスト派遣・適宜）
認知症相談センター連絡会

●認知症の人を含む高齢者に 優しい地域づくり

脳耕会（2回/年）
認知症高齢者等SOSネットワーク
向こう三軒両隣会議（約100回/年）
朝来安心見守りネットワーク（100事業所）



●認知症の理解の普及啓発

認知症サポーター養成講座
（約4570名）
キッズサポーター養成講座（概ね4校）
認知症声かけ訓練
認知症キャラバン・メイト連絡会
認知症ケアパス
出前講座



●介護者（家族）への支援

認知症初期集中支援チーム（10回/年）
認知症初期集中支援チーム検討委員会
家族介護者交流事業、認知症カフェ（5か所）



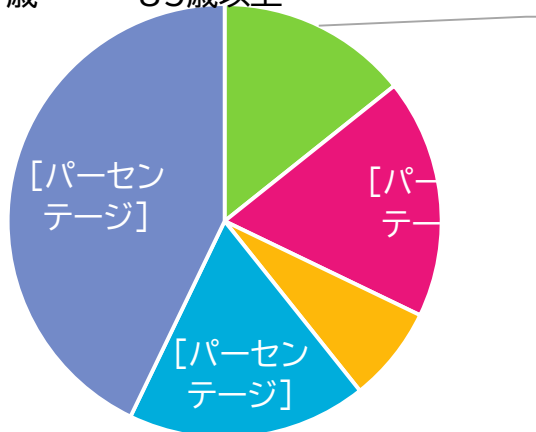
【朝来市】令和2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号<⑤>： 標題 ⑤若年性認知症の人と家族への個別支援

認知症初期集中支援事業からの報告

対象者数 (R1～R2)

■ 65～69歳 ■ 70～74歳 ■ 75～79歳
■ 80～84歳 ■ 85歳以上



65歳から74歳の若年の対象者が
全体の30%を占める

認知症もの忘れ相談の実績

対象者(R2)

	年 齢	概 要
Aさん	77歳	MCIレベルであった
Bさん	71歳	専門医療につながる
Cさん	65歳	専門医療へつながる

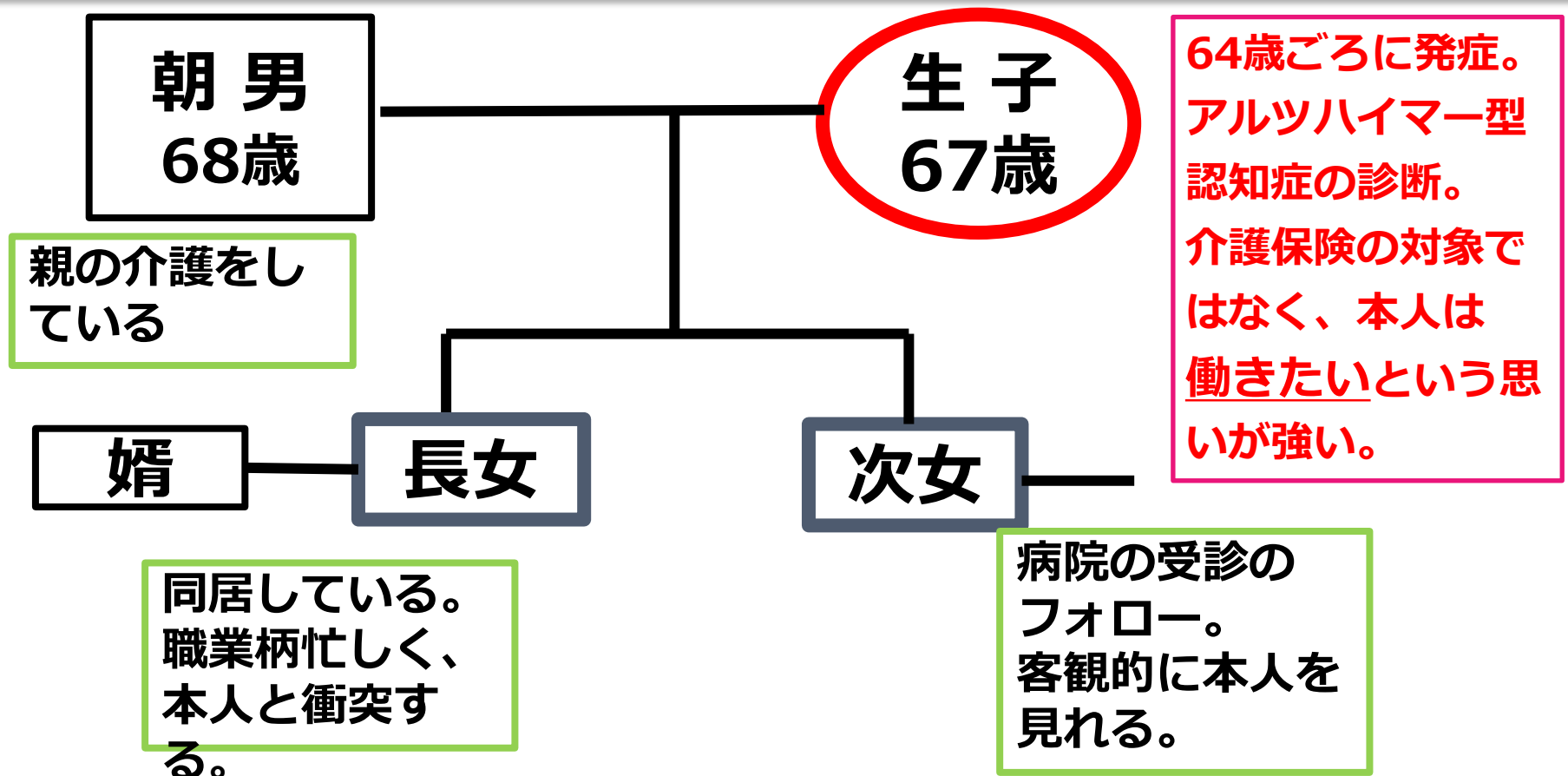
今年度の対象者は若年傾向であった

課題

- ・初期集中支援事業については、若年であり、本人の病気の受容が困難であるため、つなぐサービスがなく、本人のニーズが解決できない。
- ・もの忘れ相談については、今年度は若年、軽度の傾向であった。当事業から医療につながるがその後の社会資源がない。



たとえば・・・（初期集中支援事業対象者）アルツハイマー型認知症の生子さん



※個人情報保護のため名前は仮名です。

- ◎夫は親の介護をし、子供たちはまだまだ働き盛りで、自分たちの生活で精いっぱい。
- ◎本人の生活は自立しており、できることもたくさん残っている。でも、本人を支える社会資源がない・・・



○市内のケアマネジャー（43名）にアンケートを実施する。

若年性認知症の方の暮らしの困難さ、支援のむずかしさについて

◎年齢が若いため、家族の経済的・精神的負担が大きい。

◎認知症の進行がとても速く、家族の理解が得られにくい。

◎高齢者とは違って若いため、体力・行動力があり、活動範囲が広い

◎専門医療のデイケアであっても、症状により受け入れてもらえない場合がある

◎今の通所施設では、高齢者が主のため利用が難しい

◎交流できる場や軽作業できる場がない。



☆認知症地域支援推進員で課題を共有☆

- ◎ 認知症の診断をうけ、介護保険のサービスを利用するまでの空白の期間の社会資源の必要性。
- ◎ 役割づくりや社会参加の場の提供。
- ◎ 支援者の確保（ボランティアの確保）。
- ◎ 認知症疾患医療センターと課題の共有。



最後に

- ・今年度はコロナ禍により集合しての会議や調整などが難しかったが、認知症地域支援推進員どうして認知症施策や今後の課題、方向性などの相談をする機会が出来たことがよかった。令和3年度は課題を他機関で共有し、事業や施策をすすめていきたいと考えている。